

かせ・そら・たいようぐみだより



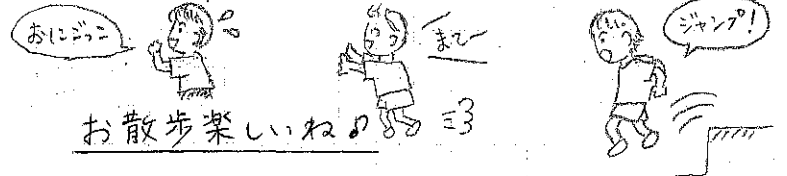
2021.4.27
円町まぶね隣保園

新学期が始まり、ドキドキとワクワク 期待に溢れている子どももいれば、新しい環境に戸惑いと不安を感じている子どももいます。1ヶ月が経ち、少しずつ生活にも慣れて、友だちや保育者との関わりや遊びを楽しんでいます。春の自然を感じ、戸外での活動も楽しんでいきます。1年間 よろしく お願いします。

かせぐみ

「かせぐみさんやなあ！」

4月から3ヶ月で そら、たいよう組と共に過ごすようになり、ガラリと環境が変わりました。一つ大きくなった喜びと、新しいリュック等に子どもたちは嬉しい気持ちになります。けれど、今までと違う生活の流れに戸惑う姿もあります。毎日繰り返す中で少しずつできること、わかることが増えていくよう見守っていきたく思います。3歳クラスになると足腰もしっかりとしてきて身体の使い方も幼児らしくなってきました。歩く、走る、跳ぶ、等 動くことが大好きになってきます。その為、思わぬケガをすることもありますが、色々な身体を動かす遊びを通して、ケガをしない身体づくりも目指していきたいと思ひます。



おうちの方に作ってもらったリュックを背負って散歩に行くことを楽しんでいいます。先日は京和幼稚園の裏にある細い道を散歩しました。初めて歩く道で子どもたちは何かあるんだろう...とワクワクして表情をしています。その日は薄暗かったので細い道が、ひそりとして寂しさが増します。心細くなって保育者の手をキッとにぎる子どももいれば、好奇心いっぱいどンドン先へ進もうとする子どももいます。迷路のような道を進んでいくと突きあたりになり、そこには手作りの人の顔が食卓でありました。一瞬子どもたちに緊張がはまります。保育者が「もう行けないから、こっちの違う道に行こうか」と言うので別の道を進んでいました。無事にもと歩いてきた道に出るとホッと「ほいくえんにかえられるな」「こわかったけど、またいてみたいなあ」と色々と感じたことを友だちや保育者と話します。ドキドキすること、季節を感じられること、興味のあること等 色々な物を見つけて友だちや保育者と気持ちをかよわせていきたいと思ひます。



おねがい、子どもが身体を動かしやすいように、保育園では半袖、半ズボンで過ごします。半袖、半ズボン共に毎日4~5枚は引き出しに入れておいてください。これから暑くなるので長袖、長ズボンは1枚ずつあれば大丈夫です。靴のサイズが足より大きいと、歩きにくく、歩き方にクセがついてしまうこともあります。足の骨が作られている今、子どもの足にあった形、サイズの靴をはかせてください。

そらぐみ

ひとつ おおきくな、たよ!!
そらぐみになって「もうおにいちゃんやぞ」と言ったり、保育者が「かせゲーム」と呼び間違えると「ちがう! そらぐみやし!」と言訂正したり、子どもたちの姿からひとつ大きくなった喜びを感じています。朝の集まりでは進級初日はなかなか集まらず、気持ちも高まっていたので話をきけるような姿勢ではありませんでしたが、回を重ねるごと、イスを円になるように移ってきて、お当番の子どもがお祈りをして人数を数えて...と子どもたちが参加して進める“おはよう”に少しずつ心が向いてきました。保育室もガラッと変わって、コーナー分けたことで自分のしたいあそびが見えやすく、選びやすいこともあり、しばらくは園庭に誘われても「なーめりえしたいのになー」と部屋でのあそびが気になるようでした。子どもたちの声もあり、4月は園庭と室内あそびを前半後半で分けてあそんできました。他にもフルーツバスケットや(ぶくだんころがし)等 ルールのあるあそびも進めています。基本的なルールが分かった子どもたちが新たにルールを作っていたり、あそびの中で自分の都合が悪くなったりと色々なことで考えたり、心を揺らしたりすることが出てくると思います。みんな考えたり、友だちの気持ちを思いやることを大切にしたいと思ひます。今後は友だちとの関係が豊かになっていく日です。色々な系至馬を通って自信をつけていくこと、木目手を思いやること、仲間が楽しい、面白いを共感する系至馬が重なっていくよう見守っていきたくです。1年間どうぞ よろしく お原い至致します。

☆おねがい☆
次の日の保育園の準備、朝の準備は子どもと一緒にして下さい。少しずつ自分で衣服を入れたり、毎日に見通しが持てるようにしましょう。

たいようぐみ

◎園外保育(水んげつみ、長北公園)
去年は新型コロナウイルスの影響で公共交通機関を使って出かけることが出来ず、マスクを着用して、乗車後は手指消毒をしっかりと対策をしながら市バスに乗って水んげつみに参りすることになりました。「水んげつみをみんなでいっしょに楽しもう!」と今年1泊7日、それぞれ手作りの入水物を作り、「きょう水んげつみ?」と作りに翌日からきょうに、自分から水んげつみを持って、当日も心待ちにしています。バスでは嬉しいを噛み締めながら窓から見える景色も楽しんでます。到着すると、すぐ矢の方まで広がる水んげつみ畑に「うわーきれい!」と嬉しそうに子どもたちです。「あ!アゲアゲ!」「あーうーまー!」と水んげつみよりも虫に興味津々な子どもも沢山いて本当に虫が大好きなお友だちの子にたくさんです。園外保育ならではの自然との触れ合いに目を輝かせていました。長北公園ではお弁当も水んげつみリュックはパンパンですが、足取り軽く到着し、パンパンで自然の中で遊ぶことができていました。大玉はダンゴムシや脱皮しかけたダンゴムシ、巨大なミミズ、シロツメクサやカラスエドク(はと見)等、色々お見せと遊びを楽しみます。何か珍しい虫を見つくと、手帳サイズの図鑑を開け、みんなで調べる姿があります。「ここはどこにお住んで?」「ミミズおかわいいのところにかえりこむらう?」「うん! もうやばい」と友だちとイメージを共有しながら、自然に触れ合える貴重な経験が出来ました。



◎イースター
去年は行事の中止でイースターの礼拝や制作が出来なかったこともあり、実物の卵を使った制作や礼拝を今年にするため出来たことに2人1組で卵を包み紙やセロハンを選び、糸で絵を描きます。本物の卵が割れにくいよう、その手の平に乗せ、2人で協力して包み紙で包み、モルでキャンドルのようにとめて作りまいた。一度包んでも、モルの止め具合が緩くて外れしまうペアもあります。次はどうしようか上手に巻けるか2人で考え、「こちもって!」「わかつた! こちもわかつた!」と力を合わせて巻きます。手作りのイースターエッグと別に、熱湯につけて卵に見りつ(フィルム)を使ってイースターエッグを作りました。子どもたちの「ちんぷいぷい!」のかげで、保育者がお玉にフィルムを巻いて卵を乗せて湯につけると、ピチッとフィルムが縮んで卵に見りついています。「うわーすごい!」「かわい!」「マジック!」と大喜びの子どもたちです。階段の足跡の場所に飾りつけたイースターエッグを見て「ほくほくこにやつ!」と嬉しそうに遊びました。

◎自然の中で育つ
乳児の子どもたちは自分のかで外の自然や同園の人に働きかけ、身体と手指と五感と心でぶつかっていき、自分育て、外の世界を豊かに深く認識していきいます。5歳児になると「おんまのにおい」や「雨のにおい」「甘いおんまのにおい」などの微かな感覚も捉えやすくなるようになっていきます。こうして世界が広がっていくことで、物事をより深く見られるようになり、想像力も広がっていきます。しかし、このおんまを決して教えることで、身に付くものではありません。自然の中でそれぞれ子どもたちが感じ取ることを大事にしていきます。これから暖かくなり、自然も豊かになり、戸外での活動もますます楽しくなります。構えは見えませんが、しっかりと、のびのびと身体を動かして遊びたいと思ひます。

